

## 会議の概要（議事録）

|                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |                      |    |  |
|----------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------|----|--|
| 会 議 の 名 称            | (番号)<br>1-49                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 墨田区基本構想審議会 第3部会（第4回） |    |  |
| 開 催 日 時              | 令和6年10月28日（月） 19：00から21：00まで                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |                      |    |  |
| 開 催 場 所              | 墨田区議会第1委員会室 区役所17階                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                      |    |  |
| 出 席 者 数              | 【委員】上野武（部会長）、金谷直政、岸成行、木村優太、佐藤祥子、杉山達雄、<br>須藤正、真鍋文朗、山本俊哉（計9名）<br>【事務局】楠政策担当課長、政策担当主査（田部井）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                      |    |  |
| 会 議 の 公 開<br>（ 傍 聴 ） | <div>公開(傍聴できる) 部分公開(部分傍聴できる)</div> <div>非公開(傍聴できない)</div>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 傍聴者数                 | 7人 |  |
| 議 題                  | 1. まちづくり、都市基盤について                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |                      |    |  |
| 配 付 資 料              | 1. 景観・水辺の活用、環境分野における未来予想図（案）<br>2. 基本構想検討シート<br>3. エリアごとのまちづくりの方向性<br>4. まちづくりの現状・将来像<br>5. 区内公共交通路線図<br>6. 自転車の活用について<br>7. 委員アンケート（第1回部会資料抜粋）<br>8. 亀四マガジン                                                                                                                                                                                                                                                               |                      |    |  |
| 会 議 概 要              | 1 前回の振り返り<br>事務局から、資料1について説明を行った。<br><br>(木村委員)<br>水辺についてだが、憩いの場を作るために水辺が必要という感じに見える。北部にはあまり水辺がないため、ここに共感が持てるのかなと。例えば自分の住んでいる地域は堤通だが、もともと水辺があった公園がなくなって都営の団地ができた。こうして北部ではどんどん水辺がなくなっている。カミソリ堤防なので、川は全く見えない。だから、この水辺を軸にしたまちづくりっていうのが、まだじっくりきていない。<br><br>また、江東区などでも水辺のまちとみんな言っている。江東区は運河がたくさんあるのでよりプライドが高いというか、誇りを持っていらっしゃるなと感じる。競い合うことに何か意味があるのかとか、もうちょっとすみだらしいテーマの出し方、改めて水でいいのかっていうところも含めて、ちょっといろんなところに顔を出しながら、感じるところがある。 |                      |    |  |

(杉山委員)

北部に水辺がないというご意見があったが、東側に流れている中川はすごくいいと思う。あれはもう本当に墨田区にはふさわしくないくらい綺麗な場所だと感じる。あれを活かさない手はないと思う。たまに走ったり散歩したりしている人がいるが、もうちょっと活かした方がいいのではと思う。見た目には墨田区で一番いい、特等席じゃないかなと思う。

(須藤委員)

中川は広い川だが、昔はもっと汚かった。というのも東墨田から立花にかけてあの辺一帯は工場地帯だった。工場がなくなって住宅が増えるにつれてものすごく綺麗になった。

(山本委員)

大事な視点だと思う。一方では他もやっているからってということだが、むしろこういう形で墨田区が水辺を全面的に出して葛飾区と連携していくであったり、実施主体はもしかしたら東京都や国であったりするかもしれない。外から来る人たちが荒川の土手からの景色が印象的で感動したという話を聞く。

(木村委員)

水辺が中心に来ていたので、そういう暮らしの方のイメージも書いてあげると理解されるだろうなと思う。

(上野委員)

さっき区役所のトイレに行ったら、雨水のことが書いてあった。水と仲良くするみたいな。水辺や雨水利用もそういうところがあると思う。

(金谷委員)

前回、水辺の話で結構墨田区に水辺の空間は確かにあるが、国との関係でなかなか手が入れられないのが現状だという話があった。確かにもっと身近なものであればいいというのは昔から思っている。多分他の区でも同じような状況で、もうちょっと護岸を使いやすくって誰もが思っているがなかなか進まない現状がある。それで再生という話が前回出た。

防災や治水などの難しい話になると、区では進められないというか、手がつかないため、旧曳舟川みたいなものを再生して、実際には川じゃないのかもしれないが、あそこで遊ぶのだったら安心だよとか、そういった場所をもっと増やせたらっていう話が前回あったと思う。京島でも川じゃなくて自分で手押しポンプを使って水をくみ上げる防災井戸などが最近出ている。そういったもので水に親しむとか、もっと身近な水っていうものもあるのかなということで話が出ていたと思う。

## 2 事務局からの伝達事項

事務局より本日のテーマについて説明を行った。

### 3 審議

#### (1) まちづくりについて

(木村委員)

資料にもあるとおり、北部、中部、南部でそれぞれ歴史や景色が違う。今感じるのは空き家が増えていることや、町工場が残念ながらなくなっていったことなど。知り合いの印刷会社も廃業している状況にある。そういうスペースの活用をどうしていくのかというのが結構気になっている。

大体が狭小住宅かマンションになってしまうが、それでいいのかと思う。そういう意味で言うと何か方向性があるといい。

これは墨田区らしさだと思うが、人情のまちということで結構懐が深いところがあるので、赤ちゃんをおばあちゃんが預かったりとか、学生・若者を支援するご近所さんがいたりとか、そういうつながりが発生しやすい環境に変わるといいと思う。

(真鍋委員)

地域によって目指すまちづくりの方向性が違うが、全体的にはどの世代でも快適に住めるまちにしてほしい。そのためにはこれまで議論をした防災・防犯、安全、道路がきれいで生活しやすいことなどが大切だと考えている。

その中でも特にこの部会にいと、安全が大切だと思う。理想としては小さい子どもが一人で歩けるまち。墨田区は道路の整備やゴミのポイ捨てなど、子どもが一人で歩くにはまだ危険だなと思っていて、そこがクリアされるといい。

また、墨田区は伝統的な企業が多くあり、今はスタートアップ企業も生まれているが、今後、学生や若者の支援などを通してさらに産業が活性化するまちづくりを実現してほしい。さらに SIC をもっと発展させ、錦糸町が日本の産業の中心地となればいいと考える。

墨田区に大学が来てくれて良かった。墨田区のことを真剣に考え、行動する大学生がいるのが心強いし、まちが盛り上がっていくのを実感した。

(杉山委員)

まちづくりということで、普通は安心安全なまちなどと言いたいところだが、私どもの立川4丁目町会では借地が地上げにあってしまい、町会費が集まらない問題に直面している。この11月に老人会やお祭りの会の関係者などに集ってもらい、今後どうするかということをお話し合う予定である。こうした状況のため、一般的なことがちょっと今言える状況ではない。

(須藤委員)

墨田区自体が、もともと向島区と本所区と言われていたが、いわゆる本所地区の方は戦争や震災でも燃えてしまった。一方で東向島や文花とか、あるいは墨田は、戦争でも燃えなかったため、昔の道路がいろんなふうに組み合わさってまちができている。そこに戦争で戻ってきた方が建築基準法のないときにどんどん家を建ててそれが残っている。

そこで今再開発をやっているような感じで、東武曳舟駅周辺は再開発が行われているが、駅の周辺だけは綺麗なふうに道路も広がって良くなっている。人口が密集していた京島地区もきれいなまちになりつつあるが、その一方でそこから少し離れると車が入ったら出られないような道路がまだたくさん残っている。

自分の子どものときからのまちの状態を見ていくと、何らそこで不便も感じなくて遊ぶ場所も多いところだった。区は、火事や災害が起きた時に延焼するのを恐れて、道路沿いにマンションをどんどん壁のように建設してきた。再開発によりビルが建ってしまうと、そこに住みたいと思っている人が引き続き住めなくなってしまう。そうしたことが起きないような政策を打ち出さないと、先ほど杉山委員が言われたとおり、住民がどんどんいなくなってしまう。

私の町会も 1000 人を超えるような町会だったが、今は 800 人ちょっとである。このためそこを考えたまちづくりをしていかなないとまちが成り立たなくなってしまう。なぜかという、区で全部細かい点までできるわけがない。そういった細かい点をやるのが町会や自治会の役割であり、そうした関係により行政と地域が成り立っているためである。

(岸委員)

これまでの皆さんの議論をお聞きしていつも思うのは、まちづくりって何だろうということ。ハードな道路を整備するとか、再開発を行うとかそういう時代ではないのではないかと私は感じている。墨田区内でそういうことがあった後をずっと見ていて、いいまちになっているかなと疑問を感じている。だからそういう方向よりも、もうちょっとソフトなコミュニティをどうやって作るかっていうことを考えていく必要がある。現実には墨田区は人口が増えているが、今の議論を聞いていると、人口が減っていて町会が成り立たないというような話に収斂していくような流れだが、全体としてはやっぱり人口が増えつつある。今後 10 年は増えていくという予想もある。

そういう中で、もう一つはマンションに建て替えるのは本当に悪いことなのかとそういう議論をしっかりする必要がある。そういう中でこれからの地域社会を今までみたいな一つのくくりで、ハードな都市計画というよりはソフトの柔らかいまちを考えていかなければいけないと思う。だからそういう意味で以前もお話があった町会自治会というつながりのほかにいろんなコミュニティを重ね合わせたりしていろんなつながりを作っていくことが、まちづくりにつながると思っている。

(金谷委員)

まちづくりはいろんなことが入っているので本当に難しい話である。防災もまちづくりになるし、私もまちづくり協議会という立場で来ており、まさにまちづくりをやっている。このまちづくり協議会は、近隣の 7 町会で結成され、私はその中の一つの町会の会長をやっている。何をやっているのかというと、40 年以上地域の防災で地震対策や不燃化促進をやっている。具体的に言うと道路を拡幅して火が燃え移らないまちをつくっている。だいぶそうした道もできてきて、安全性は高まってきたとは言われているが、東京都を 5200 地区ぐらいに分けると京島 3 丁目が建物の倒壊危険度で 2 番目に高い。そして京島 2 丁目が一番目に危ないため、やはり

まだ危険な状態ではある。

不燃化のほかにも実は結構お祭りをやっている。お祭りがなぜ必要なのかというと、隣の町会との関係性を密にして、今度防災訓練するときにはこうやろうよとか、そういう隣の町会同士での風通しが良くなるという面ですごく意味がある。ただ40年間やってもまだ終わらないのかと疑問に思っているところもあり、先ほどもあったように北の地域は借地が多い。土地の底地を持っている人と、建物を持っている人と、住んでいる人と、権利が三つあるためなかなか進まない。あと長屋問題もある。

最近、すごい勢いで地価が上がってきているため、年配の方がだんだん一人暮らしになって、その方が亡くなると人がいなくなる。いわゆる空き家になった後に、住宅メーカーさんが入ってきて、狭いところに3階建てのマンションが建ったりする。マンションが建つことで風情がなくなるということはあるが、若い世代が住み始めてそこで子どもが増えるという側面もある。今まで1クラスだった近くの小学校は20何年ぶりに2クラスになりまに活気が出てきた。

このため良い面と悪い面があって、どちらかというと墨田区のステレオタイプのイメージとしては人情のまちであるとか、長屋文化があるまちと言われているが、実はそれは外から見た墨田区であって、中の町会とかは、若い世代が住むことで子どもが増えるっていうのは悪いことばかりでもないし、防災力も上がるという点ではいい。また平屋の建物よりも3階建てのほうが、コンパクトに密集してくる。そうすると地方では広い地域にインフラが分散して都市サービスがなかなか維持できないという問題があるが、コンパクトにまちをつくるというのは一番効率がいい。

墨田区は狭いとか、そういうマイナスのイメージがあるが、どちらかというと近いとか、便利とか、防災に強くなればむしろそういうメリットが先に立ってくる。イメージだけではなく本当に何がいいのかというのをしっかり考える教育が必要だと思う。その辺の教育を子どもたちにしていくことで、例えばなかなか耐震化が進まない建物に住んでいるおじいちゃんに子どもがこの家の耐震は大丈夫なのっていうと、多分おじいちゃんは耐震改修をする。だけどそれがいないためなかなか進まずに、この40年続いているという気がする。

例えば教育とまちづくり、人づくりっていうのがもう少し密接に近づいていくといいなと感じる。

(佐藤委員)

金谷委員と共通することを申し上げるかもしれない。まちは人があって成り立つものだと思う。地域を歩いていると、新築のマンションが増えて、若い居住者が増えていて感じる。そうした中、高齢者が増えているため、高齢者を支えることができ、なおかつ子ども世代を巻き込んでいけるようなコミュニティが必要だと思う。

あとはやはり高齢者になると、なかなか人に頼めないような遠慮してしまうような状況にある方たちもいる。そういったところで声かけられるようなつながりを作り出せるようなフォローをしていただけるような行政の動きがあるといいと思う。

あとすみまのバスが走っているが、おそらくこれからもっと増えてくれれば高齢者の方たちも動きやすくなるのではないかと感じる。

(山本委員)

いろいろな重要な意見が出た。基本構想検討シート 210 番からすると、一つは住まいの問題がある。もう一つは、職住学遊などの多様な都市機能が調和をするまちということで工場の問題や空き地、道路、公園もそこに含まれるかもしれない。

まず住まいの話からしたい。先ほどの新築の話と、既存のものをどうしていくのかという大きく二つに分かれると思う。

マンションについては杉山委員のお話のとおり、墨田区は 30 数年前から全国に先駆けて沿道の不燃化ということで水戸街道や明治通りなどの幹線道路沿いに延焼遮断帯を作ることを進めてきた。

先ほどの懸念されているお話がこれは戸建てにも共通していて、住宅価格が非常に高くなってきている。ちゃんとフォローアップしきれていないが、都内ではファミリーマンションや投資型など、本当に億ションが増えている。基本構想は基本的な考え方のため、財政に裏打ちされた細かいところまで入っていけないが、やはりこれまで住んでいた人たちが住み続けられるようなバランスのとれた開発を進めていく必要がある。

一方では、防災ってということも大事だが、よそからたくさん人が来て、中の人たちが外に出ていかなければいけないということでは困るっていうお話があった。ミニ戸建住宅が京島だけではなく、東向島でも増えてきている。2 年前に京島の新築を全部調べたところ、確かに金谷委員がおっしゃるように 20 代から 40 代で転入している人が多い。また外から入ってきた人だけでなく、墨田区内で住み替えをしている人が多い。この辺が意外なところである。

先ほど教育の話があった。教育で情報を適正な形で共有していく必要がある。住宅を購入したばかりで共働きだと、地域とのつながりはやりたくてもなかなかできない。以前、防犯のところでも話が出ていたが、どういう人たちがそこで暮らしているのかが分からないと不安の材料になる。

ただインバウンドの議論とちょっと重なるが、この間、一言会が民泊のところを調べたいと言い、うちの学生と一緒に回った。新築の戸建てでインバウンド向けのものが出ていたり、堤通のマンションで何個か入っていたりする。墨田区はそうしたものを管理していてどこに連絡をできるかというのを徹底している。それらをもう一歩進めた形で、一言会の取組は墨田区とも連携をして、そこで災害があったときにどういうふうに連絡するかなどを含めて、そこでのデータを全区的に展開していきたい。

一方では町会でも誰が管理していて、誰が利用したとかいうような、そういう声があった。今後は世代がどんどん変わっていくことが大事だし、新しい人たちが入ってくることも大事だし、インバウンドもウェルカムということも大事だが、役所だけではなかなかできないところでもあるため、まちづくり協議会であったり、町会であったり、いろんなコミュニティが重なっていくところで、もしかしたらエリアマネジメントなどが必要になってくるかもしれない。

長くなるため、あとは簡単に申し上げるが、既存の人たちの中には、耐震補強などの改修をしたくてもできないような人がいる。2022 年に改訂された住宅マスタ

ープランにメニューとして入っているのかなと思うが、検討シートにある住宅確保要配慮者型改修支援事業や民間賃貸住宅改修支援事業で、区でも財政的な措置が議会で承認されればお金が出るし、必要に応じて東京都や国がやるということもある。これをきちんとまちづくりにつなげていくために、住宅マスタープランだけではなく、総合計画でもきちっと位置づけることが非常に大事だと思う。

三つ目は土地利用で、これまでもコミュニティが混ざっていることが素晴らしいというお話や、先ほどもコンパクトというなお話があった。よくよく考えると昔は自営業者がいて、その周りで完結するというので、区民の多くが自転車や鉄道に乗ったり、鉄道駅の周りに病院や商店があったり、もちろん住まいもあって、いろんなものが一通りのところは揃っていて、適度に混じり合っている。

墨田区は場所によってそれぞれキャラクターがあると思う。亀沢や京島はまちの形などは違うかもしれないが、共通しているのは商店や住まいや学校、病院などが電車や車に乗って移動しなくても行けるようなところ。そのあたりが 10 年後のことを考えたときもいいかなと思う。

(杉山委員)

確かに人口は増えているが、狭い賃貸マンションだと人口が増えても町会費は入ってこないため、町会にはメリットがない状況である。マンションを建設する際には町会を払いますという話をするが、建設業者は知らないということになる。最高裁の判例でも、町会費は払わなくていいというようなものが出ている。

(須藤委員)

最高裁の判例は、入っている人が承諾していないのに、管理組合が町会費を集めて、それを払ってはいけないという判例が出てしまった。墨田区でも、建築業者が建物を建てるそのときに今までは説明してそのまま届けて終わっていた。今は誰が説明して、誰が聞いたかというのを書類で残している。

(木村委員)

町会以外のコミュニティの活動を支援している。先週、不登校になった子どもを持つ親たちのグループがあり、母親が自主的に集まって駄菓子屋会みたいなのを作っているため、その人たちの話をいろいろ聞いてきた。

その中で、行政にはいろいろな窓口があるが、面接に何時に来てくださいと言われても、駄々をこねたり、パニック障害などがあったりして子どもを引っ張り出すのがすごく大変だという話があった。スクールカウンセラーもいるが、5 年ごとに担当が変わってしまうため、どこに何時に行かなきゃいけないという場所ではなく、ゆるくいつも誰かが集まっている場が欲しいと感じる。またいい事例として、町会の集会所を使えないかっていうのを、その母親たちが提案していた。やっぱり町会費必要ですよと言っていたが、その町会の人が母親の NP0 がその集会所を使える場所にしましょうという建設的な意見があった。

さっきのコミュニティの重なり合いという話をしたが、やはりそこがまちづくりのヒントだと思う。

(須藤委員)

11月5日にすみだ保健子育て総合センターが開設され、相談室もできる予定である。

(木村委員)

それは承知しているが、行きづらいという声がある。何時に並んでくださいとなると行きづらい子どもたちがいる。このため、子ども食堂のようにいつでも行ける場所が欲しいという声をきく。確かに新保健施設は立派な建物だが、窓口まで行かなくてはいけないというのは敷居が高い。

(金谷委員)

木村委員の意見に同意する。公共が揃えた何々室とか、何々相談室は確かに手続きが必要だったり対象者が決まっていたりとなかなか敷居が高い。公と私の中間ぐらいの最近ではサードプレイスという言い方もあるが、そういう誰でもお金を伴わないで使えるような場所が意外とない。昔だったら公園とかに集まっていたが、今では公園に中学生などが集まっているとうるさいと通報されることがある。このため公のものと、子どもの間のそういう場所っていうのは、確かに必要だと思う。

町会会館は曖昧な場所であるが、役員会で月1回ぐらいしか活用されておらず勿体ないと感じる。一応うちの規約では、子どもと高齢者は自由に使っていていいことにしているが、あまり周知されていない。老人会が週に1回麻雀を始めて、子どもたちが少しずつクリスマスのときに集まったりするようになってきたが、まだ活用されていない場所がある。

このような公共でも商売でもない場所をもっとリストアップして使えるものができるといいのではないか。

## (2) 都市基盤について

(山本委員)

基本構想検討シートでみると、鐘ヶ淵のことが記載してある。都道鐘ヶ淵線が昔から課題になっていて、立体交差するのかという議論があった。地元からすると高架化はとんでもないという話があり、結局遅くなった経緯がある。防災もそうだが、北部は道路づくりが非常に重要な課題である。東京都が進めていく事業であるが、墨田区としても総合計画にきちっと出していくことが重要だと思う。それに関連してまちづくり事業用地である隅田小学校や、北にあるアンダーパスはお金がかかる上に墨田区だけでは整備できない面がある。そういったところは全面的に打ち出した方がいい。

先ほど堤通の話があったが、堤通2丁目には白髭の防災拠点となる広大な公園があって、昔から比べると避難の収容人数は非常に少なくなったが、広大な公園というのは財産になっている。一方で、隅田公園はいろんな形で使われるような形になってきており、公園をどう使っていくのかという観点から、白髭の防災拠点はも

っと PR した方がいい。あそこは樹木がみんな火に強く分厚い木ばかりであり、消火用の水が昔からそのままになっている。ぜひそこを活用する必要がある。またこれは東京都の土地だが、墨田川高校分校のものがそのままになっていて、確か方針が全然決まってないと思う。

一方、たもんじ交流農園をやっている寺島・玉ノ井まちづくり協議会では、白髭を江戸野菜を作っていく拠点にしていくと打ち出している。今はもうご存知の通り、パリ市内ではオペラ座の上で野菜を作って、レストランでもパリで取れた野菜が広がってきている。公共施設にも農地をどんどん作り、農地が増えていることを考えると、今あまり使われていないような部分に区民が参画をして、食べられるような緑をどんどん作っていくという取組はぜひこういう縦割りを超えた計画でできるといいと思う。

交通については、簡潔に申し上げる。バス路線をどのように作るのかというところがすごく重要だと思う。また、自転車についても積極的に区として推進することを打ち出していくことが大切。そのために安全性や、どこを通っていくのかという議論やマスタープランが大事になってくる。さらに一般の路線バスと、循環バスが年配の人でもスマホで簡単にアクセスできる環境や、墨田区内の南北をもっと行き来できるような形を全面的に押し出していくような総合計画にしてほしい。

（佐藤委員）

先ほどすみまらくんの話をしたが、私が居住している菊川はすみまらくんの通っている地域から少し離れてしまっている。若い方は自転車やバイクを持っている人もいるが、高齢者は移動に不便な思いをしている人もいるため、今後、コミュニティバスの路線を広げることができれば、使いたいと思う方々も助かると思う。

また、難しい問題なのかもしれないが、公園や道路における街路樹の植栽のところに、例えば町会のスペースを作り、町会の方々が季節それぞれの花を植えるなどすることで、地域活動の一つのきっかけになると思う。

あとは、ベンチほど大がかりなものでもなくとも、高齢者が少しまちを歩いて疲れたなと思うときにふっと座れる場所があったら素敵なことだと思う。

（金谷委員）

交通で二つ思いつくところがある。一つは自転車がもう少し走りやすいように道路が整備されるといいなと思う。具体的には、道路の脇にある電柱があるとそのラインが使えなくなってしまい、狭いところがさらに狭くなってしまうため、自転車で走りやすくなるまちをつくるためにも、電柱の地中化などをどんどん進めてもらいたい。

もう一つは、路地や狭い道が墨田区の特徴だと思う。他のまちでは決められた道路を人が通ったりするが、墨田区では、ここは一体どういう位置づけなんだろうという路地が結構ある。特に北部に多く、意外と抜けていける路地がある。それは借地というところで、所有者がはっきりしないから塀を建てないことによって、家と家の隙間が路地になっていることがある。

先ほど言ったコンパクト開発とかになると権利関係がきちり整理されて 20 センチでも塀があると、もう路地ではなくなってしまう。今まで行けたところが急に

行けなくなり、路地が減っていて、下町らしさが減ってしまう。それがいいのか悪いのかというのがあるが、その路地があることによって街の隅々まで人の目が行き届くため犯罪が少なくなる良さもあると思う。夜警で地域を回る際も、役員や子ども会と一緒に狭い路地を見て回るため、なかなか悪いことをしようとしている人たちもしづらと思う。路地は防犯面でもいいし、墨田区らしさがあるため残したい。またそういったものを誘導するというか、この塀を建てないで使っていいよってことを、建築業者などにインセンティブとして与えるような提案ができるといいと思う。建築する際に、ハウスメーカーが町会に一応話をしに来る。ここの路地がなくなりますよと言ってはくれる。そのときに何とか残せませんかっていうと、業者にもよるが、残してくれる業者さんや、壁を曲げてくれた業者さんも中にはいる。あながち業者も地域に対して敵対したいというわけでもないため、お互いに譲り合うような検証やこういうことをやると何か優遇しますよみたいなことができればいいと思う。

(岸委員)

基本構想検討シート 210 番の中にある地区まちづくり団体の認定3件と書いてあるうちの 하나가、私が活動している北斎通りまちづくりの会である。景観まちづくりや景観って何だろうと、この間もいろいろ議論があったが、そういう視点でまちを見てみようとか、あるいはまちづくりに取組むことを、皆さんや行政にお願いしたい。

例えば公園整備で言うと、5年前、大横川親水公園に自販機が置かれた。なんで自販機を置くのかと尋ねたら、当時の道路公園課長からポケモンの自販機だから子どもたちが喜ぶでしょうという説明が返ってきた。私達は、いやそんなものは必要ないと言ったら、5年間の契約だから待ってくれと言われ、ようやく先日私どもの亀沢に5ヶ所あるものを撤去していただいた。普段、近くにはコンビニエンスストアが3件あり、自販機も10台程度ある。なんで置くのかという明確な理由もない。

亀沢景観形成重点地区というのを我々の活動で勝ち得て、都市計画課の指導のもと、唯一の景観形成まちづくり団体になって、毎回事業者と協議を行ってきた。その中では、町会費の話をしたり、自販機を置かないでくれという話をしたりする。玄関先に自販機を置くとあなたのマンションの資産価値が下がりますよと、そういうことを訴えて積み上げてきた、こうした活動について道路公園課は何も知らない。それが非常に残念だったため、そういうことをきちっと説明してご理解いただきたい。

それから公園についても一つは、ボール遊びは禁止、たばこのポイ捨てはやめましょうといった掲示物が数年前に山ほど公園に貼られたことがある。私どもの町会も道路公園課に行って、あまりにも見苦しいのは撤去しましょうと話をしたが、なかなか進まない。その後、千葉大と連携していろんなサインを作るという話を3年前にいただいて、都市整備部長と話をしたときに、看板サインは防災や教育委員会や観光課などが出している看板が公園にもいっぱいあるが、そういうものの調整をするかとお尋ねしたが、そういうことはしてないという回答だった。それが非常に残念で、景観まちづくりという視点がものすごく欠落しているという気がする。公園について言いたいことは、その2点である。

交通について申し上げたいのは、やっぱり歩いて楽しいまちにしたい。今回皆さん自転車とおっしゃるが、私の住んでいる亀沢の北斎通りは、電線は地中化、歩道が3mくらいある。何に一番困っているかというと自転車である。最近をよく分からない自転車が増えたり、それが逆走したりして、お年寄りや小さい子どもを持つお母さんが安心して歩けないというのが現状である。移動手段ももちろんだが、まずはゆったり歩いて腰が下ろせるまちを作るところからだと思う。鉄道やバス路線をつくるのも結構だが、自転車の専用レーン作っても専用レーンを通っている人は1人もいないし、誰も注意しない。今本当にそういうことを感じている。

(須藤委員)

先ほどすみまろくんの話が出たが、運賃100円で運行していて、事業者が赤字のため区が補填していると聞いているため、本数を増やすのはまず無理だと思う。またバスの運転手が不足しているため、いい方法がないのが現状である。

もう一つは、今自転車が危ないという話があった。今は電動自転車が増えているため、ある程度スピードが出て危ない。また電動キックボードは歩道を6キロ以下なら走れるという状態が続いているため、後ろから来ても分からないから危険である。自転車が車道を走るとなると、隣にトラックが来るとものすごく怖いのと、路上駐車が多いため高齢者の方はもう車道は走れないということで、どうしても歩道を走ってしまう。自転車や電動キックボードに乗る人の交通マナーが全然なっていない。この11月から、ながらスマホに対する罰則が厳しくなるため、少しは良くなるだろうとは思いますが、例えば電動キックボードは免許もいらなくて乗れるため危険な乗り物だなと感じる。

公園整備について、墨田区にどれだけ公園があるか調べたことがないが、大きさによって、トイレがない公園がある。日本の場合だと、ある程度どこかに行けばトイレがあるが、公園で遊んでいてトイレに行きたくなることがあるため、公園にはほとんどトイレをつけたらいいと思う。昔、北部地域では自宅前にベンチみたいなのを置いて、そこで自由に休んだり談笑したりなんかすることができたが、時代の変遷でそんな場所はない。時代が進むにつれて、年寄りが住みにくいと感じるところがだんだんと増えてきたと感じる。ただ、先ほど上野部会長が言われたとおり、まちに病院、コンビニ、スーパーなど何でも揃っている。このためお年寄りは引き続き住みたいと思うところがある。

(杉山委員)

仕事で自転車をよく使っているため、もっとバリアフリーを進めてほしいと感じる。親水公園の段差は改善されたところもあるが、まだまだ段差がいっぱいあるため、バリアフリー化していただきたい。

また自転車でまちを走っていると墨田区の場合、どうしても狭いという実感がある。墨田区は水戸街道の一部などで整備されているが、台東区の場合は自転車レーンがあり、例えば浅草から上野まで行くときに、そのレーンがずっとある。いずれにしろバリアフリーをもっと進めていただきたい。

また、老人会もやっているため、先ほど皆さんから要望があったとおり、椅子や座る場所を置いていただきたいと感じる。

(真鍋委員)

皆さんが言ったように自転車や歩行者にとって危険な道路があると感じる。先日、若い人が自転車で転倒して骨折したのを見た。ハード面では、信号やガードレールなどの整備のほか、道路の拡張をしてほしいと思う。また自転車のマナーについては、運転が荒いことがあったり、ヘルメット着用もあまり進んでいなかったりするため、運転する人への教育も必要だと思う。

公園については、子どもたちが力を持て余して、狭い場所でボール遊びをしていることがあるため、ボール遊びができる公園を増やしてほしい。また、公園でタバコや家庭ごみ、ガラスの破片が落ちていることがあり、小さい子どもが拾っているところを見たことがあるため、そのあたりの整備を徹底してほしい。

道路については、救急車が入れるか心配になるような狭い道路がある。また車いすがくぼみにはまって動けなくなってしまったのを見たことがあるため、バリアフリーがまだ進んでいないと思う。電柱が台風の際に転倒したり電線が切れたりすると危険である。また死角ができるので、ちょっと飛び出したりすると危険である。このためコスト面などで課題があると思うが、無電柱化を進めてほしい。

(木村委員)

全体的に速達性と回遊性のバランスが取れているまちをつくれたらいい。例えば東墨田などは結構まだ土地があるが、駅から遠いためなかなか住宅が建たない状況にある。そこは速達性が必要なので駅から抜けるようなバスが必要だと思う。ただ運転手の人手不足の話があったため、10年先は自動運転が実現しているといい。

回遊性は皆さんおっしゃるとおり、木密地域や狭い地域で必要かと思う。例えば、道の駅の歩きバージョンみたいな、ウォークステーションみたいなのができたら面白いと思う。先ほどもゆるく集まれる場所があるといいという話があったため、これと組み合わせてウォークステーションで集まって何かできるといいなと思った。自動運転に関しては、比較的広く整備された道が適していると思うため、南部地域で何か実験ができるのではないかなと思う。

次は公園や道路景観に関して。横浜で開催されるガーデンネックレスというイベントに必ず行く。山下公園などにバラが植えてあって、まち全体が花に包まれていてものすごくいいと感じる。それに対して墨田区の道路は本当に殺風景で、隅田川のテラスも雑草が伸び放題の状況である。何か植えてくれればいいのにといつも思っている。そういう道路景観の向上につながる活動をやることで区民の幸福度が上がると思う。

(上野部会長)

皆さんのお話を聞いていて、社会実験というか、いいアイデアを、実験的に何日間かだけでもいいのでやることができるといいと思う。道を、車のためではなく生活者のものにするといったことは、世界的にも結構動きがある。実際にニューヨークでは車の道路をどんどん狭くして、歩道を広げている。自転車でいうと、車が停まっていると進めない問題は、自転車レーンの作り方を変えることで解決でき

る。コペンハーゲン是完全な自転車社会だが、そういうところはきちんと自転車のための場所を作っている。そういういいなと思ったことを試しにちょっとやってみるのがまちづくりじゃないかと思う。墨堤通りによって隅田川沿いと隅田公園が完全に分断されているが、例えばジャズフェスティバルのときだけ車を止めてみるとか。かつて自動車は必要だったが、今はそんなに止めても支障はないんじゃないかと思う。

また路地の話があったが、路地園芸を商店街でできないかなと思う。例えば浅草通りは歩道が広いが、1mぐらい自由に使っていい場所をつくってあげてそのうちの3分の1から半分のところに鉢植えなどを出して緑化してもらう。残り半分はテーブルを出して商売してもらうなどそういうのができたら面白い。こういう社会実験をしながら道路や公園を作っていくといいと思う。

(金谷委員)

確かにスペースには限りがあって、墨田区は特に狭いまちのため、何かの場所を何かに兼ねて使えるっていう発想はやっぱり必要だと思う。

キラキラ橋商店街が近くにある。本当は道路だが、あそこに入ってくる車はほとんど皆無で、車は入っちゃいけないんだなという雰囲気を醸し出しているため、みんな入らないが、本当は入れる。何かそういう雰囲気を出すと、なかなか今まで活用されてなかったところが遊び場になることはあるかと思う。

(上野部会長)

それでは、本日の皆さんの発言で気になったキーワード等があったら、事務局の方でまとめていただくということで今日は終わりにさせていただきます。

(事務局)

まちづくりの議論では、これまで住んでいた方が今後も住み続けられるようなバランスのとれた開発をしていくべきというお話があった。一方でソフト面では、いろいろなつながりをつくっておくことが大事であるとのことご意見や、まちづくりに関する教育をしていくことが必要だというご意見があった。

都市基盤の議論では、すみだらしさを感じる路地のお話があった。路地があることで、安心安全なまちにつながるという視点もいただいた。ボール遊びができる公園の整備や、ふっと座れる場所があるといいといったご意見もあった。

今回の議論でいただいた内容を整理させていただき、次回、まちの将来像をお示しさせていただきます。

#### 4 その他

岸委員から、資料8について説明があった。

(事務局)

最後に事務局から次回開催について案内をさせていただく。次回は11月25日の月曜日、午後7時から墨田区役所13階の131会議室で開催をする。

事務局からは以上である。

|       |                                                 |
|-------|-------------------------------------------------|
|       | <p>(上野部会長)</p> <p>以上で第４回の部会を終了する。</p> <p>解散</p> |
| 所 管 課 | 企画経営室政策担当（内線３７２２）                               |